



地域をきれいにしようと力を合わせて

ごみ拾いで心地よい汗

摩周湖クリーンウォーク2012



道路わきのごみも見逃さず(上・下とも)

また今年も、弟子屈町建設業協会がトイレカーを2台提供したほか、弟子屈町未来こども協議会の会員がお茶のサービスを行いました。

徳永町長は「たくさんの皆さんに参加いただき、また、たくさんの事業所に協賛いただいたことに、誠に感謝している」と話していました。

然の番人宣言事業、シーニックバイウエイ弟子屈エリアの活性化事業の一環として行われたもので、今年で7回目です。今回は一般町民の方や小・中学生、園児のほか、事業所などから約600人が参加。社会貢献活動として7年連続参加している弟子屈町建設業協会(辻谷智之会長)からは、63人が参加しました。参加者は16のグループに分かれ、摩周湖や川湯温泉、仁伏などの8コース全40キロを歩き、空き缶やペットボトル、タバコの吸い殻などのごみを約400キロ集めました。

町主催の「摩周湖クリーンウォーク2012」が6月2日、町内各地の国道や道道沿いで行われました。

摩周湖周辺の環境保全対策や自然の番人宣言事業、シーニックバイウエイ弟子屈エリアの活性化事業の一環として行われたもので、今年で7回目です。今回は一般町民の方や小・中学生、園児のほか、事業所などから約600人が参加。社会貢献活動として7年連続参加している弟子屈町建設業協会(辻谷智之会長)からは、63人が参加しました。参加者は16のグループに分かれ、摩周湖や川湯温泉、仁伏などの8コース全40キロを歩き、空き缶やペットボトル、タバコの吸い殻などのごみを約400キロ集めました。



東星波部建設のグラウンド整備

地域の役に立ちたい

4社による社会貢献活動



今道東建設工業による道路の清掃

6月1日には、(株)今道東建設工業(今誠代表取締役)の皆さんが、900草原入り口3区間と町道釧路川右岸線12区間の清掃を行いました。両区間で47人が参加。道路の清掃とごみ拾いを丁寧に行っていました。

5月26日には、東星波部建設(山村五十三代表取締役)の皆さんが、奥春別小学校と川湯中学校のグラウンド整備を行いました。子どもたちの喜ぶ顔が見たいとして行ったもので、昨年に引き続きの作業です。除草や転圧など、とても丁寧な作業を行っていました。

5月24日には、今井林業(株)(伊藤喜美雄代表取締役)の皆さんが、川湯農村公園内の伐採を行いました。同公園内の樹木が、隣接する住宅に倒れる危険性があると懸念されていたところ、同社が伐採を申し出たものです。倒木の恐れのあるイタヤカエドとハルニレ、合わせて16本の処理を行いました。



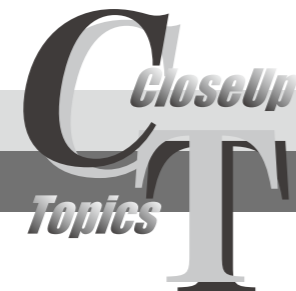
佐藤建設工業のソフトボール場整備



今井林業の伐採

(株)佐藤建設工業(佐藤洋司代表取締役)の皆さんが5月19日、摩周観光文化センターのソフトボール場と運動広場の整備を行いました。例年この時期に行っているもので、今年で3回目。15人が参加し、タイヤショベルで表土をはがし、タイヤローラーで転圧しました。

町の話



町の話

町の話



町の話



審査に力が入る

自慢の牛馬を競い合う

第60回弟子屈町家畜共進会



かわいいリードで会場の笑顔誘う

町とJA摩周湖共催の第60回弟子屈町家畜共進会が6月8日、弟子屈町家畜共進会場で行われ、乳牛の部に7戸の酪農家から34頭が、馬の部には4戸の馬産農家から6頭が出陳されました。

開会式で家畜共進会会長の徳永町長が「酪農や馬産は開拓の歴史とともにあり、町の農業を支えてきた。日頃の尽力に感謝する」とあいさつ。乳牛の部では、子どもたちのかわいいリードも大いに会場を盛り上げました。馬の部では、大きな馬体を自在に操る馬産農家の力強い掛け声が響く中、和やかに競技が進行しました。

主な審査結果は、次のとおりです。

■乳牛の部

▽グランドチャンピオン／メドープリッジ ロースシャトル(高橋和憲さん所有)▽リザーブチャンピオン／ブライトランド ルーレジェンド(坪井泰憲さん所有)▽ジュニアグランドチャンピオン／ハッピーランド チャンピオン エレナ(吉田雄貴さん所有)▽ジュニアリザーブチャンピオン／グリークエストギブプロアストライ／(坪井秀明さん所有)

■馬の部

▽最優秀賞／シンマレイ(端正行さん所有)

緑あふれる町を目指し

弟子屈町植樹祭 グリーン・タッチ



町内の子どもたちが一堂に会し植樹(グリーン・タッチ/2枚とも)

6月4日には、町内の子どもたちによる植樹活動「グリーン・タッチ」が、弟子屈中央広場(弟子屈中学校横)で行われました。ふるさとの自然環境を守り、育てていく意識を深めてほしいと行われたもので、今年で3回目。幼稚園 保育園 児童・中学校・高校生徒、教職員など約910人が一緒に、エゾヤマザクラ145本を植樹しました。

弟子屈町植樹祭「森林は自然の貯金箱」が5月31日、元仁多小学校分収林で行われました。緑のふるさとづくりに目的に、町と弟子屈町緑化推進委員会(会長・徳永町長)が主催して毎年行っています。今年には約100人が参加。カラマツ1千200本と、北海道電力(株)弟子屈営業所(池田勝秀所長)から送られたドロノキ、エゾヤマザクラ計100本を植樹しました。また、緑化推進委員会に対して20万円を寄付した今井林業(株)(伊藤喜美雄代表取締役)に感謝状が贈呈されました。



心をこめて丁寧に苗木を植える(植樹祭)



毛並みや体格などを審査